



うさ本ファミリー

# 楽しく子育て!

～子育て支援コーナー通信～

第79号

発行日

2013年12月19日

(毎月19日発行)

## 第27回 子育て支援コーナー企画展示

### 「知れば知るほどおもしろい!

### ～家族で伝統行事を楽しむ本・えほん～

が始まりました。

期間：平成25年12月3日(火)～

平成26年3月2日(日)



新しい本が  
入りました。

( )内の数字は  
棚の番号です

『産後クライシス』  
内田明香／著  
ポプラ社／刊  
2013.11  
(支援1-1)

『理想の間取りを手に入れたナチュラルスタイルの家』  
主婦と生活社／刊  
2013.11  
(支援2-1)

『ギークママ』  
Natania  
Barron／著  
オライリー・ジャパン／刊  
2013.10  
(支援3-3)

『おまごのほん』  
日本助産師会／編  
日本助産師会出版  
／刊  
2013.4  
(支援4-1)

年越し、お正月、節分、ひなまつり・・・年末年始から春にかけてのこの季節、子どもたちが楽しみにしている行事が続きます。「ねえ、どうしてお正月にはおせち料理を食べるの?」と子どもに尋ねられたら、さあ、どう答えますか?

毎年いろいろな行事を楽しんでいても、由来や意味までは意外と知らないものですね。

そこで、今回は行事の由来を知ったり、楽しんだりするために、伝統行事の本や行事にちなんだ絵本など、約200冊を展示・貸出します。ご家族でどうぞご利用ください!

## 子育てから親育てに

私には2人の男の子がいる。2歳違いで現在30半ばになっている。

子どもたちが小さい頃、私は、知人から譲り受けた絵本を寝る前によく読み聞かせていた。「浦島太郎」や「さるかに合戦」などの昔話のほか、「泣いた赤鬼」、「めっきらもつきらどおんどん」などもよく読んでやった。次男は、「めっきらもつきらどおんどん」が特に気に入りで、「しゃくだから かんたは うたってやった おおごえで、めちゃくちやのうたを」のくだりを何度も口ずさんでいた。時には私のほうが先に眠たくなって、先をせがむ子どもたちの声を聞きながら、「もうおしまい。」とつぶやいたら本を閉じたことも。幼い子どもたちと共に絵本を楽しんだ懐かしい思い出である。

子どもたちの小・中学校時代は、妻の両親に子育てを頼っていた。実家には、妻が小さい頃読んでいた「少年少女世界名作文学全集」（小学館）があった。次男は「十五少年漂流記」や「ああ無情」（レ・ミゼラブル）などを愛読したようだ。親子2代同じものを読み継いだことになる。今でも親子でこれらの本が話題に上っている。

大学時代、長男は理工系に進んだが、生き方に少し悩んだときがあり、私に相談があった。「理工系の方面の人が書いた自叙伝などを読んで参考にしては」とアドバイスした。その後、長男は、「ノーベル賞を受賞した朝永振一郎も大学生の頃、勉学に苦闘した」などと私に語ったことがある。私のアドバイスも少しは彼の生き方の参考になったのではと密かにうれしく思ったものである。

最近、私が「重力とは何か」（大栗博司／著 幻冬舎）など科学の入門書を読んでいると、子どもから「それどういう内容？」と聞かれることがある。私は、冷や汗をかきながあわてて最初から読み返している。子育てがいつの間にか親育てに変わったようだ。（M）



『めっきらもつきら どおんどん』  
長谷川摂子/作 福音館書店



## ★「X'masワークショップ～おはなしと工作～」のお知らせ

12月23日（月・祝日）14時から児童資料コーナーにて、香川大学教育学部附属高松中学校、美術部の生徒さんによるワークショップと読み聞かせを開催します。みなさま、どうぞお越しください！



編集後記 大掃除にとりかかりました。途中まで順調でしたが、未整理の写真や子どもが保育所で製作した手形などが出てきて、一気にスピードダウン。思い出・記念の物は最後に片付けた方が良さそう？（T）